

case
49
アート・シンプル
ふじみ野の家
埼玉県/ふじみ野市
設計/矢板久明・矢板直子
家族構成/夫婦+子供2人

杉板の木目が映える、白のギャラリ

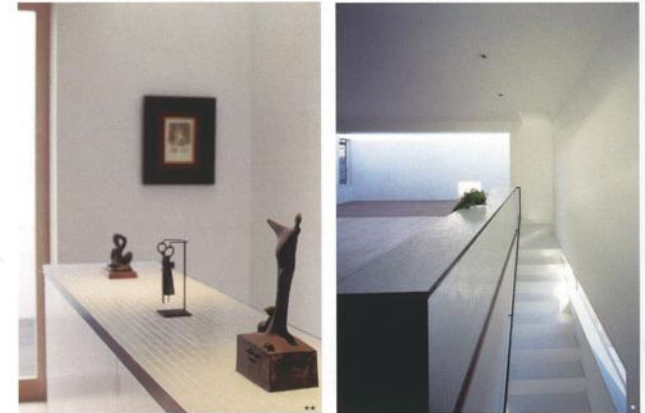


上/枠のないスリット状の窓が際立つ彫刻的な外観。外壁の板張りは周辺の屋根瓦を写し、墨色に染めた*
下/リビングからダイニングを見る。白く染色した杉板の間仕切り壁の向こうがキッチン**

アートが映える、シンプルで広がりがある空間が欲しかった
美術品を扱う仕事をしている建て主。自宅でも絵画やブロンズ彫刻が映えるシンプルな空間が欲しいと思いました。また、友人が集まれるように、窓を開ければテラスと室内が一つながりになるような、広がりのあるリビングダイニングと、妻の実家の前に建つので、みんなが使う2台分の駐車場を希望しました。道路からの引きがなないので、窓を少なくして歩行者からの視線からプライバシーを守るようにもしてもらいました。外観は日の光を受けると立体感が出て、彫刻のようで大変気に入っています。*
建て主の要望を受け、建築家が工夫した点
敷地の広さを最大限に生かし、道路からのプライバシーを確保するため、開口部は最小限とし、テラスからの反射光が明るく室内を照らすリビングダイニングを2階に浮かべることになりました。駐車場と母屋への入り口はテラスの下に確保してあります。外壁の板張りは周囲の屋根瓦に近い墨色に染め、中は一転してアートが映える白いインテリアとしました。白とはいっても、近寄ると木目が映えるよう木を白く染めた素材感のある仕上げとなっています。ブロンズの彫刻に負けないよう、カウンタートップは硬質な白いガラスモザイクとし、周りを黒く塗ったスチール材で縁取りしました。



階段を上ると、テラスと一体となった明るいリビングが広がる*



ブロンズの彫刻に負けないよう、黒いスチール材で縁取ったガラススタイルの天板



玄関を入ると、一転して白の世界が広がる*

DATA
敷地面積：105.99㎡ (32.0坪) 延床面積：104.5㎡ (31.6坪)
1階/54.54㎡ (16.5坪) 2階/49.96㎡ (15.1坪)
用途地域：第二種中高層住居専用地域
建ぺい率：60% 容積率：200% 構造：木造
設計/矢板建築設計研究所
〒150-0001 東京都渋谷区神宮前3-42-8-402 電話：03-5775-7217 FAX：03-5775-7218
ホームページ：http://www.yaita-associates.com E-mail：mail@yaita-associates.com
コーディネーター/ザ・ハウス
構造設計/すむ製作所 名和研二
設備設計/島津設計 島津充宏
施工会社/アルボックス 時田
〒360-0041 埼玉県熊谷市宮町1-4 電話：048-524-4794
竣工/2006年12月
写真撮影：*平井広行、**永野佳世、その他の写真：矢板建築設計研究所

建築家からのメッセージ



「南軽井沢の家」雄大な景色と木もれ日を楽しむ山の家



「磯子台の家」庭と一体となったりリビングのある郊外の住宅*



「調布の家」敷地に合わせて内側に折られた横長の窓からリビング全体に光が満ちる



矢板 久明/矢板 直子
Hisaaki Yaita / Naoko Yaita
矢板久明/1955年生まれ
1982年 東京大学大学院建築学専攻修士課程修了
1982-93年 谷口建築設計研究所
1994年 矢板久明建築設計研究所設立
2005年 矢板建築設計研究所に改組・改称
矢板直子/1958年生まれ
1994年 日本女子大学家政学部卒業
1982年-2002年 アーキプレーン建築研究所
2002年 内田直子建築研究所設立
2005年 矢板建築設計研究所共同主宰

家づくりで大切にしていること
建て主の想いを映し出すように、住宅を設計しています。建て主の心と、敷地の持つ可能性が出会うと、そこに少しずつ建物の輪郭が浮かび上がってきます。
最初はほんやりと見えていたものが、輪郭を露わにし、矛盾しているかに見えていた諸条件さえ、一つの秩序へと昇華しながら、建物が立ち現われてきます。真に不思議な感じさせます。この瞬間は喜びに満ちています。この喜びをお伝えすることが、建築家の役割であると考えています。
家づくりへのアドバイス
イメージを建て主と二階につくりあげていくパートナーが建築家です。ですから、最初からはっきりとしたイメージをつくりあげる必要もありませんし、あまりはつきりしすぎていると新たなアイデアもかえて出てくるようになってしまいます。ほんやりとしたもので十分ですから、過剰に考えた時間や、生活のシーンを教える必要が、それを徐々に形にしていけることが設計だとお考えください。

設計について
やはり男性と女性では得意とする分野が異なりますので、それぞれの立場で設計に携わることが重要と考えています。従って、私たちは2人で一緒に住宅の設計に対応しております。建て主の方にも、できるだけご夫婦そろっての打ち合わせをお願いしています。打ち合わせでは、条件の整理を少しずつはじめていきますので、設計の経過を共有し、建て主とともに家づくりしていくことを心がけています。

こんにちは、 建築家です!

アーキテクツファイル

.....
社団法人 日本建築家協会 関東甲信越支部顧客支援システム委員会 編著

